

救助院について（鱚網工場）

ド・ロ神父は、貧しい農民に副業を与えるため、漁網工場を設立しました。彼は、漁網の生産によって、農民がより多くの収入を得ることができ、より良い暮らしを送れると信じていました。漁網の質は良く、しばらくのあいだ、良い売れ行きを見せていました。

しかし、この工場ができて間もなく、他の工場が機械技術を使いより良い網を作り始めたため、手作業の製造業であったこの工場の利益はなくなってしまい、漁網工場は廃止されました。その後、この建物は、保育所へと生まれ変わりました。

今では、この建物はド・ロ神父に関わるさまざまな品を展示した博物館となっています。